

価値観の多様化と 社会資本利用の変化について



総合技術政策研究センター 建設経済研究室 研究官 大橋 幸子 主任研究官 湯原 麻子

(キーワード) 移住、価値観、生活行動圏

1. はじめに

経済成長偏重と便利さへの傾倒が一段落した今、人々の多様な価値観が顕在化しつつある。同時に、ライフスタイルや生活関連施設の立地の変化等と相まって、日常生活における行動範囲(生活行動圏)についても変化している。それらに伴い、社会資本の利用状況も変わり、求められる役割も変化していると考えられることから、社会資本整備・管理にあたり、価値観の多様化、生活行動圏の変化を十分に把握することが重要となる。本稿では、このために実施した調査に関して紹介する。

2. 価値観の多様化

人々の価値観とその変化については、国民生活選好度調査をはじめとする世論調査等により傾向が把握できる。そのため、いわゆる田舎暮らしを好むなどのマイノリティーとされていた価値観、これからの新たな潮流となりえる価値観について調査することとした。調査では、都市部から地方部へ魅力を感じて移住した人を対象に、移住理由、重要と考える価値観とその変化、および居住地選択の際に必要なと考える施設等について、インタビューを行った。調査地域は、移住支援に先進的かつ積極的に取り組んでおり、これまでに多くの移住者を迎えている福島県小野町、鳥取県日南町、鹿児島県垂水市とした。

3. 生活行動圏の変化

人々の価値観が変化する一方で、生活行動様式や生活関連の施設立地も変化している。そこで、買い物行動に着目し、生活行動圏の変化についての調査を行った。調査では、福島県郡山市及びそ

の周辺における全体的な事業所の立地状況と交通行動の変化を押さえた上で、郊外部の2地域において、同地域に長年居住する住民へのヒアリングにより、各個人が利用する店舗、利用頻度等の変化やその理由を把握・分析した。

4. 求められる社会資本の変化

調査では、生活行動圏の変化及びその傾向を把握するとともに、これまで魅力的な指標とされた大型ショッピングセンターなどを必ずしも重要としない価値観や、通勤に長時間をかけることに格別の抵抗を感じる価値観があることなどを見ることができた。今後は、定量的な分析を行うとともに、価値観の差異に伴う社会資本の利用の変化の分析を行う予定である。



写真1 福島県小野町
関東との行き来を保ちつつ、田舎の良さの中での暮らしを望む移住者が多い

写真2 鳥取県日南町
理想とする仕事などの日々のやりがい求めた結果として移住する人が多い



写真3 鹿児島県垂水市
温暖な気候と、小さくとも便利なまちでのゆとりある暮らしに惹かれた移住者が多い

【参考文献】

国土技術政策総合研究所資料No. 520 「地域社会の持続性に関する研究」2009 <http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryoku/tnn/tnn0520.htm>